

半田市 蔵出し情報 報道機関提供資料

問合わせ	新美南吉記念館 館長 榊原一人 0569-26-4888
------	------------------------------------

令和元年 12 月 24 日提供 (事前情報・事後情報)

名 称	新美南吉の幼年童話「ゲタニバケル」の初出誌を発見！
展示期間	令和元年 12 月 25 日（水）～令和 2 年 3 月 31 日（火）
場 所	新美南吉記念館常設展示室
観覧料	常設展示室 観覧料 220 円が必要です（中学生以下は無料）
趣 旨 (目 的)	●南吉の幼年童話「ゲタニバケル」は、これまで南吉の死後に出版された童話集『がちょうのたんじょうび』（昭和 25 年／羽田書店）が初出誌だとされてきましたが、東京の古書店で売り出された『カシコイ二年小学生』昭和 9 年 11 月号に「下駄にばけた小狸」というタイトルで 5 頁にわたり掲載されていたことがわかり、新美南吉記念館で購入しました。 ●同時に南吉の幼年童話「ウラレテイッタクツ」を掲載した『カシコイ一年小学生』昭和 8 年 1 月号も入手できたので 2 冊合わせて展示します。 ●『カシコイ一年（二年）小学生』はめったに市場に出回ることがなく、国立国会図書館でも部分的にしか収蔵していない貴重な雑誌です。 ●『カシコイ二年小学生』昭和 9 月 11 月号には、童話「泣いた赤おに」の作者として有名な浜田広介の童謡「さじのたび」も掲載されています。全集未掲載の作品で新発見である可能性があります。
担当者 情熱メッセージ	これまで「ゲタニバケル」は、美智子さまのご講演で有名な「デンデンムシノカナシミ」と同じ昭和 10 年 5 月の執筆と考えられていましたが、今回の発見で、昭和 9 年 11 月以前にさかのぼることがわかりました。
別 紙	有
写 真	有

半田市企画課広報情報担当
0569-84-0603



●『カシコイ一年小学生』『カシコイ二年小学生』は、東京神田の神保町にあった精文館が、昭和7年～10年頃に刊行していた児童雑誌です。童話は浜田広介、小川未明、童謡は北原白秋、童画は鈴木寿雄、初山滋、漫画は中島菊夫ら、当時第一線で活躍していた作家や詩人、画家などの作品が掲載されていました。南吉と同じ白秋門下の先輩、與田準一や巽聖歌の作品も多く掲載されていますが、見つかっていない号が多く発行部数や終刊時期などの実態が分かっていないため現在では幻の雑誌となっています。

●当館では『カシコイ一年（二年）小学生』を恐らく日本でもっとも多い25冊収蔵しており、南吉の「アメダマ」「子どもの好きな神さま」「たれのかげ」「あし」が掲載されたことが確認出来ています。これらの作品を書いた頃、南吉は東京外国語学校に通う学生でした。当時の彼にとって同誌は大事な作品発表の場でした。

●浜田広介（明治26年～昭和48年）

山形県東置賜郡高畠町出身。日本児童文芸家協会初代理事長。小川未明、坪田譲治と共に日本を代表する童話作家として一世を風靡し、「日本のアンデルセン」とも呼ばれました。代表作は「泣いた赤おに」のほか、「棕鳥の夢」「よぶこどり」「竜の目の涙」など。

浜田広介記念館（山形県東置賜郡高畠町）／<http://hirosuke-kinenkan.jp/>

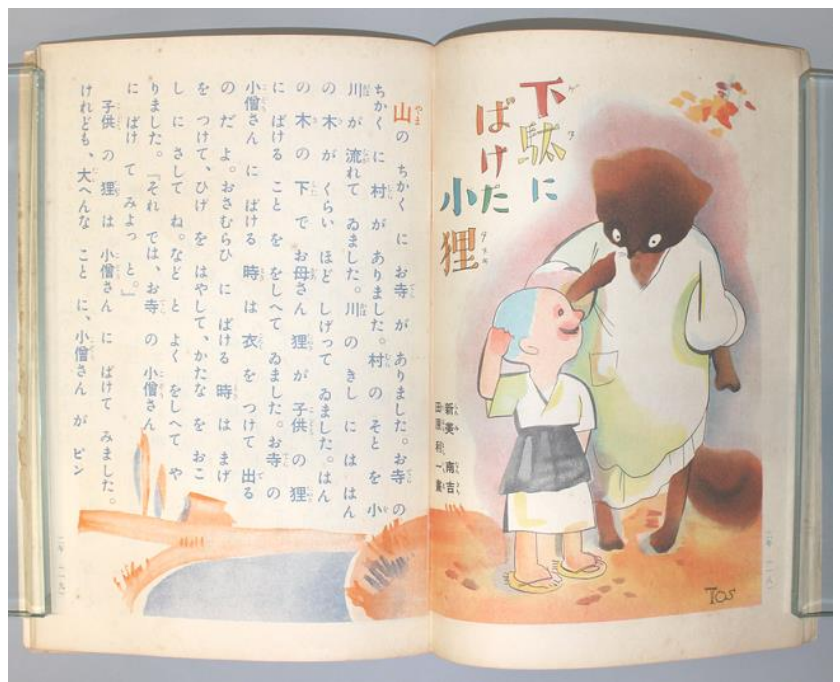
【南吉はこの雑誌の出版社で浜田広介と会っています】

昭和8年10月14日付日記／

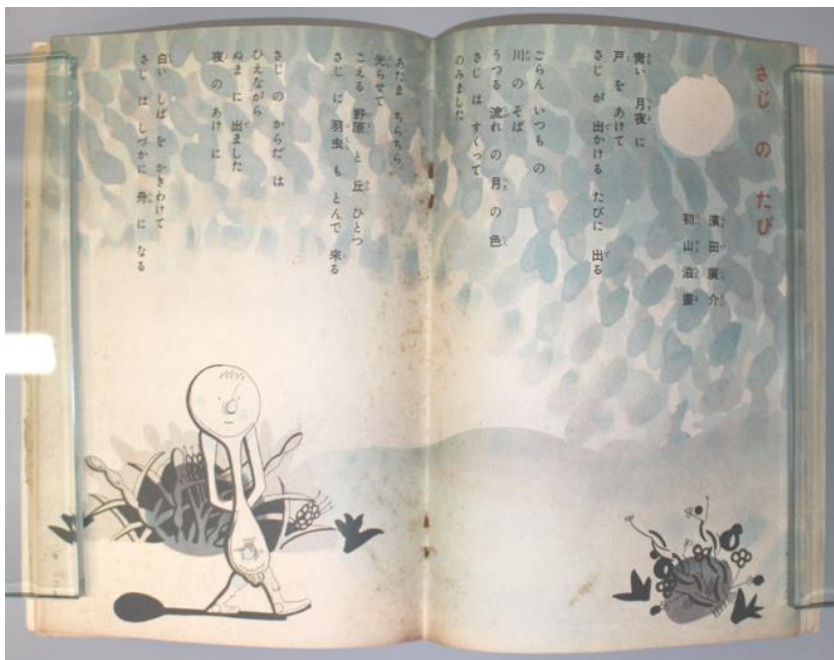
帰りにひょっこり與田さんにあつたので藤掛とわかれて與田さんと一しょに精文館にいった。（中略）精文館でまっていたら浜田広介がやって来て渡辺さんと何か新しく創刊する研究もののはなしを勢いこんで話していた。大家にともなううらいらくに欠けてはいるが鉄砲玉のようにかりっとしていてすきのない人だと思った。渡辺さんが自分を紹介してくれたら「あ、そうですか、名はよく存じています。」とあっさりと簡単に事務のように公式のように言った。



▲『カシコイ二年小学生』昭和 9 年
11 月号・表紙



▲同号／新美南吉「下駄にばけた小狸」掲載ページ



◀ 浜田広介
童謡「さじのたび」掲載ページ